

特 集

基礎看護学領域における超音波画像診断装置を用いた 看護技術演習の学習効果

山田 聡子 卷野 雄介 竹内 貴子 高下 翔
近藤 絵美 西久保ひろみ 福岡友理恵 中島佳緒里

特 集

基礎看護学領域における超音波画像診断装置を用いた 看護技術演習の学習効果

山田 聡子¹ 卷野 雄介¹ 竹内 貴子¹ 高下 翔¹
近藤 絵美¹ 西久保ひろみ¹ 福岡友理恵¹ 中島佳緒里¹

I. はじめに

基礎看護学領域では、本学 DX 推進プロジェクト活動の一環としてワイヤレス超音波画像診断装置（以下、超音波画像診断装置）を用いた看護技術演習の実践に取り組んだ。これは、令和3年度に採択された「大学改革推進補助金（ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業）」の交付による活動である。本稿では、超音波画像診断装置を用いた基礎看護学領域における看護技術演習の学習効果についてその概要を報告する。なお、具体的な成果評価について調査を実施しており、看護学関係学会にて発表した。現在、論文投稿の準備を進めているため効果に関する詳細は割愛する。

II. 超音波画像診断装置を用いた看護技術演習

科目名「基礎看護技術Ⅲ」と「ヘルスアセスメント基礎」において超音波画像診断装置を用いた看護技術演習を実施した。用いた超音波画像診断装置は、富士フィルム社 iViz air のコンバックスプローブとリニアプローブである。演習概要は 2022 年度年報を参照いただきたい。

1. 「基礎看護技術Ⅲ」における超音波画像診断装置を用いた演習

演習単元・時間は採血 1 コマ (90 分) であり、演習において刺入部位の観察として超音波画像診断装置を用いた。演習後に学生に対して感想等を尋ねた結果、超音波診断装置を用いることで血管の走行・刺入



図1 使用した超音波診断装置

血管の深さ等がわかりやすかったとの意見が多数得られた。また、既習知識である解剖学的な知識との照合を行う機会となったことも学生の意見から推察された。

2. 「ヘルスアセスメント基礎」における超音波画像診断装置を用いた演習

演習単元・時間は膝窩動脈・足背動脈ならびに膀胱の観察 1 コマ (90 分) であった。演習後に学生に対して感想等を尋ねた結果、触診ではわかりにくい膝窩動脈や足背動脈の走行について超音波画像診断装置を用いることで理解が進んだとの意見が多くあった。また、膀胱の観察についても、対象に侵襲なく残尿が測定できる方法として学生が認識できたことがうかがえた。対象の状態・状況をアセスメントする方法として超音波診断装置を用いることの意義が理解できたと考える。

¹ 日本赤十字豊田看護大学 基礎看護学領域



図2 演習の様子①



図3 演習の様子②



図4 演習の様子③



図5 演習の様子④

Ⅲ. おわりに

令和4年度から基礎看護学領域において超音波画像診断装置を用いた演習を実践し2年目となった。学生の意見から、超音波画像診断装置を用いた演習について、既習知識である解剖学的な知識の想起と強化に関する効果や、根拠ある看護技術の重要性を強化できたことなどを実感している。教授方略について継続的に見直しを進め、さらに、領域横断的に教授方略を共有することで本学における次世代を担う看護職者の育成に資する活動として引き続き進めていく。